

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2794100020		
法人名	関西物流株式会社		
事業所名	グループホームアセス北梅田		
所在地	大阪市北区本庄西1-9-12		
自己評価作成日	平成 28年 8月 31日	評価結果市町村受理日	平成 28年 11月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2794100020-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2794100020-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 10月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・明るく笑顔の絶えない施設。・広々とした共有スペース。</p>
------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地下鉄駅に近く便利の良い都心マンションの2階を住居とした、開設8年目の2ユニットの事業所です。玄関はマンションの入口とは別になっており、エレベーターもホーム独自で設置しています。近隣の幼稚園児との行事、夏祭りや地藏盆への参加をしていくなどして地域住民との交流を大切に努めています。管理者、職員は「情熱と愛情をもち、人を癒し・活かし・繋がること、地域社会に貢献できる職業であることを誇りにします」を事業所理念として、笑顔が溢れる楽しい環境づくりを実践しています。理念を達成するために毎月職員の月間目標(10月は「チームケアであるという意識」)を掲げ、チームカンファレンスで話し合っています。重度化が進んでいる中でも利用者が過ごしやすい環境を提供することができるようリビング中央を改装中です。畳を敷いたり、車いすのままでもコタツが利用できるような和のスペースを検討中です。職員は、笑顔で明るく利用者の立場に立ち、個々人を大切にしたいと考えています。今後も地域になくてはならない事業所として期待されます。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p><b>○理念の共有と実践</b>            地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>アセス北梅田の運営理念を明記し、ヘルパーステーションに掲げ、日常の業務を通じて方針を職員間で共有し、行動するように指導している。</p>	<p>管理者や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。事業所理念の基に毎月月間目標を掲げ、「業務連絡」として休憩室や事務所内タイムカード上に掲示し職員間で共有しています。職員間ではこの目標を達成するようチームカンファレンス等で話し合いがなされ、質の高い介護施設を目指して日々実践に活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、町内の活動・行事には積極的に参加している。 また、行事として月2回程度地域のボランティアさんに訪問していただき、交流を行っている。	ホームは、町内会に加入しています。利用者職員は、地域の祭りや地蔵盆に参加したり、近隣幼稚園の園児との交流があります。また、地域住民の傾聴ボランティア、歌やギター演奏等の交流は利用者の楽しみとなっています。今後は地域住民がホーム夏祭りに参加してもらえるよう検討をしています。地域では「北区にこりんくの会」が開催されており、地域関係機関・医師・訪問看護師・ホーム等が参加して、地域住民が安心して暮らしていけるよう、認知症ケアに対する住民の理解を得る取り組みが進んでおり、ホームも裏方として参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	北区にこりんくの会等に参加し、意見交換、お手伝い等をさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月毎の会議で施設の活動報告及び予定を話し、参加していただいた各人よりの御意見・アドバイスは取り入れる様努めている。としています</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1回開催し、議事録を作成しています。会議は、家族代表、地域住民代表、地域包括支援センター職員、地域の総合相談窓口担当者、ホーム管理者、主任職員等の構成となっています。ホームの状況、行事、活動報告、研修報告等議題にしています。出席者のアドバイスで地域行事の活用や「ふれあいフェスタ」への参加に繋がっています。また、他の地区での認知症カフェの紹介もあり、利用者が参加できるか検討中です。管理者は参加者からの色々な情報を取り入れ、積極的に取り組んでいます。</p>	
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>            市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>GH 連絡会等で地域包括支援センター職員の方にも、アドバイスを受けたり、実情を理解していただく様努めている。</p>	<p>市の担当課とはいつでも相談できる関係にあります。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議において報告・相談をして、情報提供や助言を得ています。この一年に市に報告する大きな事故はありませんが、転倒や医療機関で縫合などの処置をした場合は、小さなことでも報告をして連絡を密にしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員は身体拘束のないケアを目指し、研修等で身体拘束について理解を深め、意識の向上を図っている。身体拘束をしない(言葉でも)介護に努めている。</p> <p>玄関の施錠に関しては未だ解決していません。</p>	<p>身体拘束排除のマニュアルを作成し、職員は研修や勉強会で身体拘束について学びながら、身体拘束を行わないケアを実践しています。ホームでは玄関扉は開放していますが、エレベーターのみ施錠しています。前回の外部評価受審時にエレベーターの施錠について開放を検討してはどうか、との提案があり職員間で検討した結果、建物の構造上、立地条件等また現在の職員数では事故なく対応できるか疑問が残った為、今後も時間をかけて検討を重ねることとなり、やむを得ずまだ解決はしていません。しかし外出願望のある利用者については、何時いつでも職員は見守りと付き添いで対応しています。ホームでは重度の利用者が多く、夜間に転倒防止のためベッド柵を使用するときもありましたが、職員間で検討の上、センサーを取り付けてベッド柵を外しました。</p>	<p>エレベーターのロックについては、職員間で話し合い利用者の外出願望の状況を見極め、日中の職員の目が行き届く時間帯に開錠することから始めてはどうか</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待に対する意識を持ち、絶対に起こさない様、施設一致して取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設にも後見人さんが増えてきており、対応をスムーズに行なう為にも勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん御家族様からの質問があればその都度説明を行い、理解していただける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御意見箱は常時設置を行い、施設に対して直接言えない場合に利用していただく様、御家族様にもお伝えしている。また、直接伺う事ができる時は、話を聞かせて頂き、内容によっては職員及び会社の上層部に必ず報告する。</p>	<p>家族が面会に来ると、湯茶の接待を行い、利用者と一緒に過ごすように配慮しながら利用者の日頃の様子を伝えています。意見箱は玄関入口に置いています。家族は意見や要望があれば面会時に直接職員に伝えられる関係にあります。面会が少ない家族には、毎月利用料の請求書と一緒にホームの機関誌「アセス便り」と、担当職員が利用者の写真を添えて手書きで日頃の様子を知らせています。ホームからの便りに家族からお礼やホームへの要望等の返事が届くこともあります。</p>	
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b></p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の社内会議を設け、職員からの意見は代表者に届く様努めている。カンファレンス等で職員の意見・提案を聞く機会を設けている。</p>	<p>管理者は職員の意見を機会ある度に聞き、その都度対応するように心がけています。月1回社内会議で出された職員の意見や提案は、ホーム運営に活かしています。ホームでは、重度の利用者が多く入浴時に湯船に浸かりにくいので、利用者がゆっくりと湯船に浸かれるように浴槽を改善してほしいと職員からの要望があり、現在前向きに検討中です。また、職員の希望により研修にも力を入れています。管理者は職員が働きやすい環境を整えながら、職員の資質向上に努力しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の労働意欲低下を防ぐ為の努力をしている。 毎年のペースアップ。 有給休暇取得の自由。 サービス残業はさせない等。		
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を行っている。(3ヶ月に1回) 入社3ヶ月間は試用期間を設け、指導者をつける。 経験に応じて、社外研修・講習を受けている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区のグループホーム施設との交流を活発に行っている。また、大阪市のグループネットワーク研修に参加し勉強会や意見交換等を行っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークの際に御本人の性格や生活の様子を十分に聞き取り、入居時に発生する困難を出来るだけ少なくする様努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様から今までの生活の様子を詳しく聞き、また、家族の要望も聞き、家族が安心して親御さんを預けられる様に努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ早く施設の生活や環境に慣れて頂く様、職員全員が支援方法を統一して混乱されない様、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GH本来の生活の支援という形から出来る事は一緒に行って頂くという姿勢で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出等、許す限り家族と共に過ごす機会を持って頂く為のお声かけを常にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が来訪されるのは構わない事はお伝えしている。 また、年賀状を出す支援も行ない、馴染みの関係を大切にしている。	利用者の古い友人や知人がホームを訪ねてきます。職員は年賀状を出す支援も行っています。時々年賀状の返事が届いて利用者に喜ばれています。ホームでは馴染みの関係が途切れないような支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間をさりげなく取り持ち、話をする機会を作り、寂しい思いをさせない様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居理由により、継続した関係は難しい場合の方が多いが、出来るだけ気軽に訪ねて下さる事が出来る関係であり続けたいと考え、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを汲み取る事は容易ではないが、出来る限り本人らしく暮らして頂ける様に努めている。	職員は利用者一人ひとりの好みや意向を確認しながら支援しています。自分の意思で動ける利用者は自由に日常生活を送っており、消灯時間も自由です。重度の利用者の意向は日々の細かい仕草で職員は確認しています。利用者の思いや意向は記録に残して職員間で共有しながら個別支援に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の生活の様子などはアセスメントの段階で家族様から聞かせて頂き、職員全員が共有して援助に役立てる様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々得る事が出来た情報は、職員全員が周知し活かす様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回チームカンファレンスを行い、家族の希望・意見も取り込み、その都度現状にあった介護が出来る様、介護計画を作成している。	月1回チームカンファレンスを開催しています。ミニカンファレンスは都度開催して職員全員で利用者に関する情報を交換しています。モニタリングは毎月1回行っています。介護計画は3ヵ月ごと及び利用者の状況により必要に応じて見直しを実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個々の介護日誌に特に気づいた事、注意すべき事は申し送りノートに記入し、日々の介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに合わせて取り入れるものは早急に対応する様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	色々な地域資源を活かし、楽しい生活が送れる様に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医はもちろん、個々のかかりつけ医とも友好的な関係を築く様支援している。 全ての利用者が、医師による往診を月2回受けている。訪問看護の定期的な看護も受けている。	利用者は家族の協力により、入居前からかかりつけの医療機関へ受診することもできます。協力医は、月2回の定期往診をしています。訪問看護師が事業所へ来訪し、利用者日々の健康管理を行っています。職員とは、利用者の健康状態についての連絡や相談をしています。夜間や緊急時には連絡可能なオンコール体制を構築しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約しており、その都度情報交換を行い、連携を計っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時には定期的に見舞いに行き、担当医師・看護師・家族と情報交換を行っている。 医療機関の協力も得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に対する対応はその都度家人様・医師と話し合う場を設けている。	ホームでの「看取り指針」はありませんが、マニュアルを整備したり、職員研修を実施する等して、利用者や家族の希望により実施しています。これまでに看取りを行った事例があり、現在も支援しているケースがあります。管理者は、利用者や家族の意向に添って、今後も重度化に対応した支援を行っていきたいと考えていますが、家族には、状態変化に伴い、支援の方向性をその都度話し合いながら進めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時に備えて、職員全員が慌てない様にマニュアル作成等常々心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置、非常口の確保・確認など、年2回の消防避難訓練を行っている。食料や水の備蓄もしている。	キッチンには食料品や水等の備蓄を行なっています。消火器、スプリンクラーが設置され、非常口の扉は手動操作で全開する仕組みとなっています。年2回消防署指導による避難訓練を実施しています。また管理者は今月、担当職員を消防署が実施する研修に参加させ、消防署より避難訓練の指導を受けて具体的な避難誘導策を決め、職員が確実に避難誘導できるようにアドバイスを受けたいと考えています。備蓄についても、ホームで必要な食料などを見直して準備する予定です。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場であることを留意した上で、言葉かけや対応に気を配った支援に努めている。また、研修で接遇や人権について学び、意識の維持・向上に努めている。	管理者、副施設長は、接遇やプライバシー保護の研修を実施しています。職員は丁寧で穏やかに利用者一人ひとりに接しています。介護主任は、9月目標の一つに入居者への声かけが与える影響を考えることを挙げ、「失礼はないか、尊厳を守っているか、目線を合わせているか」など職員に細かい指導や配慮をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の許せる範囲ではあるが、自己決定・希望を表せる事が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・おやつ以外の時間以外は自由な時間を持って頂いている。行事に関しても声かけは必ず行うが強制はしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を間違えていない限り、出来る方には自分で選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食事の準備・お膳拭き・洗い物などを職員と一緒に手伝って頂いている。	朝食と夕食は職員が調理しています。味噌汁は、利用者と職員と一緒に作っています。昼は業者の仕出し弁当を提供しています。朝食、夕食の献立作りや買い物、調理、盛り付け、後片付けまでを、希望する利用者と職員で行っています。職員は、家事支援についての利用者の役割を大切にしたい支援に努めています。おやつ作りにスイートポテト、たこ焼きなどがあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量はその都度確認・記録している。また、持病により量の加減は行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声かけ・見守り、出来ない方にはその都度職員が声かけ・介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄の記録を残し、一人ひとりのパターンに合わせて、声かけ・誘導を行っている。	職員は細やかに排泄と水分摂取量を記録して、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。利用者に声かけや誘導を行い、トイレでの排泄、排泄の自立に向けて支援を行っています。尿意のある利用者には、オムツを利用していても本人、医師と話し合いながら、立ち上がり自分でトイレでの排泄ができるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をつけ、日中こまめに水分摂取の声かけ、食物繊維の食べ物の摂取、運動、口腔体操を行いよく噛んで食べていただくよう声かけを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助なしの入浴が出来る方は現在おられない為、声かけ・誘導を行っています。拒否の強い方は入れる時に入って頂く事もある。	入浴は週3回を基本としています。浴室は個室で明るく、利用者は入浴中に職員との会話を楽しんだり、ゆず湯やしょうぶ湯も楽しめます。利用者の重度化で職員の声かけ、誘導、介助が必要となっています。入浴を嫌がる方には曜日を変えたりしてさりげない対応をしています。寝たきりの方には足浴、手浴、全身清拭など丁寧な支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めているが、居室では自由に過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師・医師・看護師と連携し常に確認を怠らないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には出来る範囲で声かけを行ない、色々な内容を役割・気分転換として手伝って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事にはできるだけ参加している。また、夏季・冬季に関しては頻度は少ないが、春・秋には地域の喫茶店や買い物等に出たりしている。	日常的には、近隣の業務用スーパーや店へ食材の買い物を兼ねて職員と一緒に出かけたりしています。職員は地域の行事、夏祭りや盆踊り、敬老会への参加、初詣、花見など外出できる機会を設けて外出支援が増えるよう取り組みを行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人より問いがあれば「御家族から預かっています」と伝え、対応している。御本人が買い物を直接される事はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	申し出があれば自分で掛けられる様に支援し、また、職員が代わりに掛けてお渡しする事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の照明・空調には常に気を配っている。また、廊下やフロアなど季節感を感じていただく為に写真や創作物等を掲示している。	リビング空間はゆったりと明るく、適温に保たれています。清掃は職員が行っています。リビングや壁には利用者の手芸作品や職員と一緒に作った絵などを飾って、季節感やぬくもりを演出しています。今回、居心地のいい共有空間の仕掛けとしてリビングを改装中でした。畳を敷いたり、そこに車椅子でも利用できるようなコタツを置いて、利用者にとってゆったりとした居心地の良い和のスペースとなるよう検討中です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは自由に行き来する事ができ、本人のお気に入りの場所を作ったりされるのを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内レイアウトは御家族様・御本人に任せており、馴染みのあるものや、思い出のある物を自由に持ち運んでいただいている。	居室にはベッドと洗面台、エアコン、カーテンを備えています。窓には障子があり、明るい日が差し込む和風の居室となっています。利用者はさらに整理ダンス、ソファー、テレビ、椅子を置くなどして自由に使っています。タンスの上には家族の写真や人形を飾ったり、職員手作りの誕生日カードを置く等して利用者が居心地よく過ごせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人で出来る事は頑張っている。出過ぎた介護は行わず、安全を考慮しつつ見守っている。		